

教師は、会議で IT 機器をどこまで使えるか

－ 学校での新しい会議スタイルの模索 －

沖縄県立真和志高等学校 教諭 本村 金三

postmaster@mawashi-h.open.ed.jp

キーワード：職員会議、連絡会、プロジェクタ、ネットワーク、IT 機器

1. はじめに

学校での教師の活動の場は、授業だけではない。学校という組織を運営するために、教師は学年会や委員会、連絡会、職員会議などさまざまな会議に参加し、活動報告をおこなったり自分の意見を述べたりする。その場合、本校（たぶん多くの学校）では、紙に印刷した資料を基に口頭で説明するというオーソドックスな方法である。このようなスタイルにとくに問題があるわけではなく、お互いにコミュニケーションをとる方法として今後も使われていくはずである。

しかし、近年学校をとりまく情報環境は大きな変わりつつある。インターネットに象徴されるようにネットワークや IT 機器を活用した授業などさまざまな教育活動が試みられている。そのなかで職員間のコミュニケーションが伝統的な方法だけというのは少し寂しい気がする。このさい新しい変化の波に乗って、これまでにない会議の形を模索する試みも必要ではなかろうかと考え、今回このような企画を立ててみた。多くの職員の協力を得て、簡単かつ気軽に IT 機器（プロジェクター・PC・LAN 等）が日常的に使えるかどうか、現実とすり合わせながら具体的に検証してみた。

2. プロジェクトの概要

(1) 環境構築

夏休み、会議室にスクリーンを設置。現在使われていない視聴覚室用の古いスクリーンを活用した。見た目は不恰好だが、意外と快適である。プロジェクタはいつでも使えるように常設とする。

(2) 実施スケジュール

1) 職員会議: 9 月 28 日。

前期反省のための職員会議。いくつか部署にプロジェクタに利用をお願いした。地歴・公民科、視聴覚係、美化係、情報係、情報科。おおむね簡潔な説明ができたと思う。

2) 朝の連絡会: 10 月 1 日、11 月 2 日、11 月 3 日、11 月 4 日、11 月 24 日。

連絡事項（紙に印刷して配布）をパワーポイントのスライドに書き換える。書き換え自体は、たいした作業ではないが、時間ギリギリまで連絡内容が書き込まれるので、時間的に厳しい。余裕をもってプロジェクタを準備しないとすねトラブルが生じることがある。事実、操作を誤って、画面を表示できずに、急きょいつもの方法に変更したこともあった。（万一に備えていつもプリントも準備）。

3) 11 月 28 日、アンケート実施。

4) 朝の連絡会: 1 月 27 日、1 月 28 日、1 月 29 日、1 月 31 日。

パワーポイントの代わりウェブページを利用してみた。書き込みと修正が容易な WikiWiki を使ってみた。ネットワークは、本番になると妙に接続が悪くなることがあり、信頼性に欠けるので、いつもヒヤヒヤであった。

5) 2 月 1 日、アンケートの実施。

(3) 評価と反省

1) 思ったよりトラブルが多発した。プロジェクタ単体ではさほど問題ないが、パソコンやネットワークに接続して利用する場合は、トラブルが累乗する。毎日利用する日常的なツールとなると、利用環境の信頼性は重要なポイントである。

2) プロジェクタの画面は、いくつも連絡事項が並ぶ場合は、スクロールや画面の切り替えが必要である。すべての職員が、同じタイミングで画面に集中するわけではない。タイミングを失うと必要な画面を見逃すことになる。これは、プロジェクタの大画面が人々の注意を喚起しやすいメリットの裏面とみなすことができる。

3) 表示したスライドについては、文字サイズ、文字の分量など見やすかったという評価をえた。

3. アンケート調査の考察

1) アンケートは 2 回おこなった。プロジェクタを利用した今回の試みには、多くの職員から好意的な評価をえられた。じっさいに使ってみたいと答える職員も少なからずいた。

2) 多くの職員が今後、IT 機器の利用が広まるのは自然の流れと感じている。否定的な設問に○をつける人は一人もいなかった。ただ、いつごろ学校に定着するかという問いには、5 年以内と考える職員は約半数、残りは 5 年から 10 年と考えている。大雑把に結論づけると、IT 機器の定着は 5 年先ぐらいであり、そのころは回答者自身も含めて誰もが使っているというイメージである。